

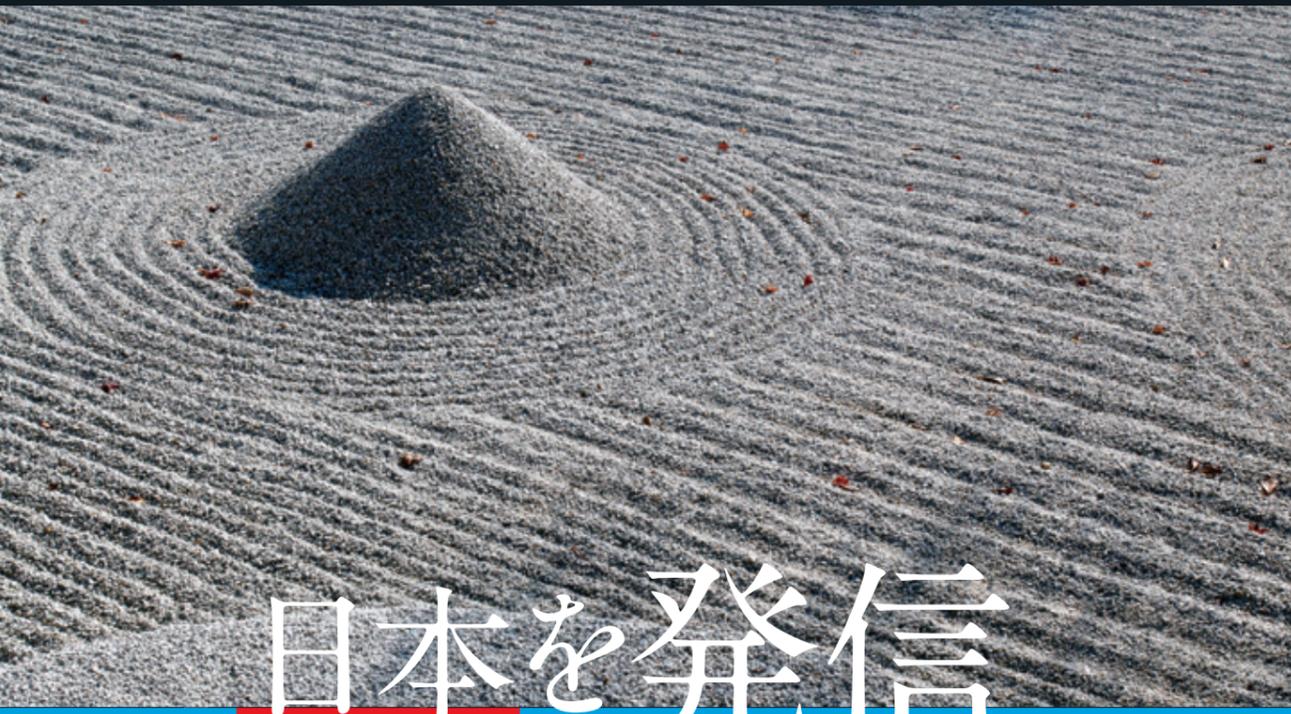
 Graduate School of Global Japanese Studies

明治大学大学院

国際日本学研究科 国際日本学専攻 修士課程

2012年4月 開設予定 (2011年7月現在設置届出中。名称その他計画に変更が生じる場合があります。)





日本を発信

Graduate School of Global Japanese Studies

波心庭

「波心庭 (はしんてい)」は、枯山水の庭園である。そこにあるのは、ただ白砂と立砂だけである。水を用いることなく山水の風景を表現する。写真の庭園は、京都・高台寺の方丈前庭にある。独特の美に圧倒される。

枯山水の庭は、禅の僧侶たちの心の修行の場として発展したものである。坐禅を組み、この庭と対峙することで僧侶たちは、己の内面を見つめ、心の在り方を問うた。庭園は、いわば宇宙であり、大自然なのである。その宇宙や自然と己の存在を一体化し、無を見出すことで境地を開こうとした。

白砂で作られた水面から、波紋が広がる。その波は絶えることなく広がりを持ち、異なる波との交わりをも受け容れ、新たな波紋を描く。



研究科からのメッセージ

「世界の中の日本」を再構築(リデザイン)

明治以降日本は、西欧にキャッチアップするため多くのことを海外から学んできました。その過程でいくつかの試練に直面しましたが、20世紀末には経済力・生産力・技術力等、様々な分野で欧米先進国に比肩し、凌駕する分野も現れました。なぜ短期間に世界のトップクラスに躍り出たのかなど、日本人のものの考え方、その背景にある伝統文化や現代文化に関心が寄せられています。クールジャパンなどはその典型でしょう。

しかし時間軸を未来に向けて考えてみると、アジアの周辺諸国を始め新興国が急速に経済発展する一方、日本は高齢化と少子化が同時に進み、今までに経験のない人口減社会に見舞われます。それまでの右肩上がり前提にした社会システムや価値意識等に少なからず影響が起きてくることになります。さらにグローバル化の進展により、世界の相互依存関係がより緊密になっています。

こうした状況の中で、われわれ自身が「世界の中の日本」という、日本の立ち位置を国際的な視点から再確認し、その上で世界との様々な分野で交流を進め、積極的に相互依存関係を構築していく必要があります。「国際日本学研究科」はまさにこのような問題意識のもとに研究をおこないます。具体的には、本研究科では世界の多様な文化や社会システムを深く理解するとともに日本を理解することを重視します。また、それにとどまらず、その理解に基づいて、自らの意思を言語や様々なメディアを通じて的確に表現し、発信する方法も研究していきます。

国際日本学研究科長 (就任予定者)
長谷川文雄 工学博士

【国際日本学研究科 概要】

名称	国際日本学研究科 国際日本学専攻
課程	修士課程
学位名称	修士(国際日本学) Master of Global Japanese Studies
学生定員	入学定員20名 収容定員40名
授業時間	昼間開講
修業年限	2年
修了要件	30単位以上の単位修得と修士論文
キャンパス	明治大学和泉キャンパス ※2013年4月から本学のキャンパス(中野キャンパス)に移転することを計画しています。

【教職課程の設置】

本研究科では、中学校・高等学校1種免許状「外国語(英語)」の取得者が「専修免許状の認定科目」を24単位以上取得することによって、下記の免許状を取得することができます。取得条件など、詳細は大学院事務室(和泉)に確認ください。

(現在、課程認定を申請中です。)

中学校教諭専修免許状 「外国語(英語)」

高等学校教諭専修免許状 「外国語(英語)」

【研究科の教育理念】

- (1)国際的視野で、ものごとを考えることを重視します。
- (2)国際日本学研究を科学として成立させるための客観性・体系性を追究します。
- (3)日本文化研究と日本社会システム研究を相互浸透する研究分野と捉え、人文科学と社会科学の関係性に留意した研究のあり方を追究します。

【研究対象領域】

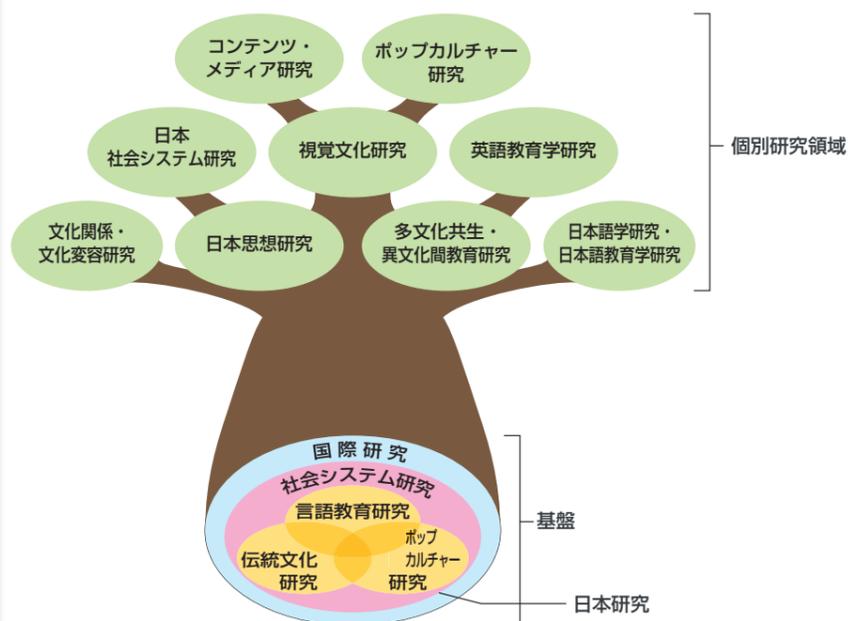
国際日本学研究科には、視覚文化研究、ポップカルチャー研究、コンテンツ・メディア研究、日本社会システム研究、多文化共生・異文化間教育研究、日本語学研究・日本語教育学研究、英語教育学研究、文化関係・文化変容研究、日本思想研究といった幅広い研究領域があります。それらの有機的関連の中で、それぞれの研究領域の更なる深化を図るとともに、他研究領域とも積極的に交流し、時代に即応した堅固な基礎を持つ研究者を養成します。

【活躍が期待される機関・領域】

修了者には、次のような機関・領域で活躍することを期待しています。

- (1)国際協力機関、外資系企業、貿易・観光などに関連した国際機関、諸文化活動機関など。
本研究科で身につけた高度な語学力と日本文化・社会に関する深い理解力が、国際的舞台において有効に用いられることが期待されます。
- (2)コンテンツ産業、テレビ・ラジオ局、新聞社などマスコミ関係、出版関係、メディア産業における、特に国内外に向けた情報を発信する部門。
とりわけ、通信と放送の融合が見込まれるメディア業界においては、国際的な視野でそれぞれのメディアの特性を生かした戦略的な情報発信をおこなうことが求められており、本研究科の修了者への期待は高いものと考えられます。
- (3)国内外の教育機関など。
日本語については、本研究科は、今後ますます需要の増大が見込まれる国内外の教育機関で活躍する、すぐれた指導力を持った日本語指導者の養成に寄与できると考えています。また英語に関しては、本研究科で体系的に学んだ教育理論を生かし、高度な英語教育をおこなうことができるようになると考えられます。すでに中学校・高等学校1種免許状「外国語(英語)」を取得している者は、本研究科において専修免許状「外国語(英語)」を取得することが可能です。
- (4)在日外国人に関わる諸課題に取り組む機関など。
日本で生活する外国人は増加しており、外国人住民が増加する自治体やNPO、留学生が学ぶ全国の大学、外国人が勤務する企業などでは、外国人の生活に関する諸課題を解決できる専門家の需要が高まっています。本研究科の修了者は、こうした機関で活躍することが期待されます。
- (5)大学、研究機関など。
将来、博士後期課程を設置する予定ですが、当該課程を経て、国際日本学研究領域における研究者を目指す者に対して指導をおこなうことも、本研究科の役割です。

国際日本学研究の構造



主な設置科目

- 国際日本学総合研究
- 視覚文化研究(美学・美術史)
- 視覚文化研究(映画)
- ポップカルチャー研究(漫画・アニメ・ゲーム)
- コンテンツ・メディア研究(国際メディア)
- コンテンツ・メディア研究(コンテンツ産業)
- コンテンツ・メディア研究(国際知財)
- 日本社会システム研究
- 多文化共生・異文化間教育研究(異文化間教育学特論)
- 多文化共生・異文化間教育研究(国際教育アドミニストレーション)
- 日本語学研究
- 日本語教育学研究
- 応用言語学研究(社会言語学)
- 英語教育学研究(学習指導要領と指導法)
- 英語教育学研究(カリキュラムデザイン)
- リサーチメソッド研究(質的研究方法)
- 文化関係・文化変容研究(比較社会)
- 文化関係・文化変容研究(比較文学)
- 文化関係・文化変容研究(日本文化史)
- 日本思想研究 等

九つの研究領域

本研究科は、日本の文化および社会システムを国際的な視野をもってよく理解するとともに、異文化や多様な社会システムに対する理解をもち、さらに自らの意思を言葉で明確に表現することができる、国際社会で広く活躍する力のある実務者・教育者・研究者を養成することを目指しています。

01 視覚文化研究

現代文化の正も、負も、視覚文化の解明から

物と情報があふれた現実と捉われるな、とした長い宗教の桎梏から解放され、思いきり物を見、情報を視覚化する喜びにめざめた時代を「近代(モダン)」と見て、人々が絵や映画、写真、テレビ、ゲームを極限まで追求してきたあり方を、技術史として、あるいは政治や市場との関係の歴史として考える一方、映像の謀略的利用、画像のもたらすトラウマ傷害の深刻といった負の面も併せ研究し、現代文化との基本的な付き合い方を考えていきます。



映画前史の映像興行として名高いファンタスマゴリア(幻燈)ショー(1849)。啓蒙教育にも役立つ一方、詐欺ペテンにも悪用された。問題は、背後から映像を投射するこの人物が悪意ある政治家ならどうなるか、だ。

02 ポップカルチャー研究

日本の先端文化、マンガ・アニメ・ゲーム

マンガ・アニメ・ゲームなどの現代日本文化の発展過程や現状、並びにそれらと都市やデザインにまたがるさまざまな現象を扱います。とりわけ「おたく文化」の秋葉原への集中に見受けられるような、特定のスタイルやテイストの発生と、それに基づくコミュニティや場の形成に重心を置きます。また、サブカルチャーとみなされてきたものに大きくまたがるそれら文化のアーカイブ化と、保存・運用に関する実践的研究を行います。

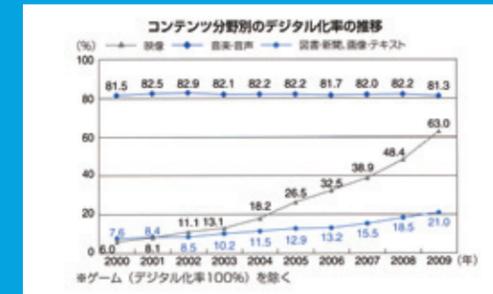


「おたく：人格＝空間＝都市」展 (ヴェネチア・ビエンナーレ第9回国際建築展日本館)

03 コンテンツ・メディア研究

コンテンツとメディアの新たな融合を!

今後生成されていくコンテンツの多くはデジタル化され、多様なメディアと組み合わせられてグローバルに流通していきます。この状況が既存のメディア産業に多大な影響を及ぼし、コンテンツ産業、メディア産業の再編や新たな参入を促すことになります。一方報道などこうしたコンテンツの中味に関しては、常に信頼性が問われることになります。どのような信頼性を担保し、コンテンツ・メディア産業を発展させていくかについて、多面的に研究を行います。

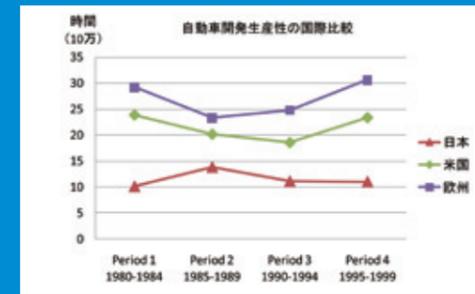


出典:「デジタルコンテンツ白書2010」(財)デジタルコンテンツ協会
近年、コンテンツのデジタル化が急速に推移している様子がわかります。たとえば、デジタル化により、書籍に見られるように、「本」から「電子書籍」という新たなメディアによる流通が起き、既存の出版産業に影響が起きてきます。

04 日本社会システム研究

日本の社会経済システム・経営システムの再発見

日本のものづくりでは、先端技術とともに「摺り合わせ」、「つくり込み」integral architectureと表現される独特の製造プロセスや従業員のチームワークが注目されてきました。また、世界展開している日本のコンビニや総合商社、さらには地域の産業集積の機動力も、同様に組織化、「協同」の成果と捉える見方もあります。この研究領域では、日本の優良企業の経営や流通、産業集積を対象に、「日本の経営」、「日本の経済システム」と見なされていた諸特徴を、再検討していきます。

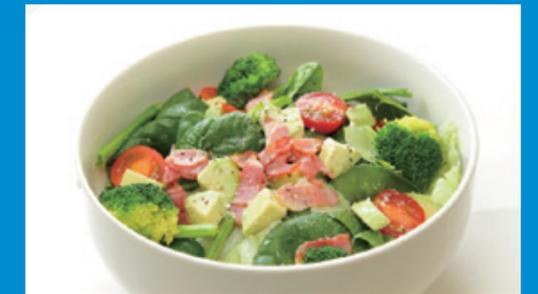


これは、データの収集と分析に基づいた自動車開発生産性の国際比較の例です。日本企業の高い生産性の背景には、フロントローディング(問題の前出し)手法や高いチームワーク型問題解決能力などの要因があります。

05 多文化共生・異文化間教育研究

ダイバーシティが社会を変える!

グローバル化の進展によって、外国人労働者や留学生等が増加し、社会の活力が増すとともに、さまざまな課題も生じています。その結果、自治体、学校・大学、NPO、企業などでは、外国人受け入れに関する企画立案、業務運営、異文化間ソーシャルワークやカウンセリングができる人材が必要となっています。本研究領域ではそうした人材の養成を目指します。

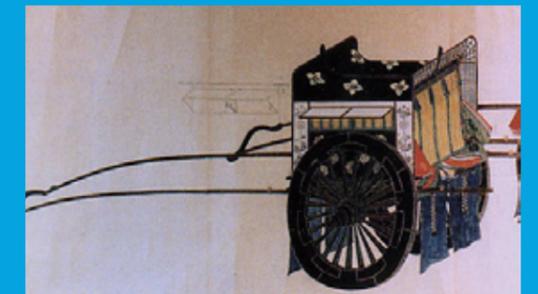


多文化社会のサラダボール シナジーを生み出す工夫は? 美味しいドレッシング、一緒に作りませんか。

06 日本語学研究・日本語教育学研究

「日本語」を携え、世界へ。

日本語を研究対象とする「日本語学」の分野では、日本語を歴史的に捉える通時的な研究と、現代語など時代を限定してその時代の日本語をとらえる共時的な研究が可能です。どちらの場合でも日本語の姿を、文字、語彙、文法、文章、運用、認識の仕方などの側面から解明します。日本語を外国語として教えるための研究をする「日本語教育学」の分野では、日本語に関する深い理解に基づいて、よりよい日本語教材や指導法を追究します。



写真出典: 山口伸美「平安朝「元氣印」列伝」掲載の口絵写真より
雅やかな昔の日本の乗り物「牛車」。これに乗ると、慣れない人は「車酔い」をした。はてさて、「牛車」「車酔い」の言葉は何時から使われたのか? 物や認識の仕方がかわる「言葉」を追究することは、日本文化を究めることに連なります。

07 英語教育学研究

英語教育は科学だ！
理論を学び、実践に活かそう

母語は無意識で習得できるのに、なぜ第2言語を習得するのは難しいのでしょうか。どうすれば効果的な英語教育をおこなうことができるのでしょうか。その答えを得るためには、応用言語学、社会言語学、心理言語学、認知言語学などの言語学の分野はもとより、言語政策やメディア研究、脳科学など様々なアプローチが可能。その意味で、英語教育は学際的な分野です。最新の理論や知見、研究方法を学び、教育現場で実践できる力をつけましょう。



「グループワークをするフィンランドの小学生」
最近接発達領域論とは、「子供は、大人やより能力がある人のscaffoldingを得て、一人では解決できなかった問題が解決できる状態となる」という考え方である。つまり人は、他者調整(他の人の助けや協力)を得て、やがて自己調整(自律)の道筋をたどるのである。それを具現化しているのがフィンランドの教育である。

08 文化関係・文化変容研究

比較文学・比較文化研究の
面白さを知ろう

この研究領域では異なる文化の関係、および異文化間の接触、対立、衝突あるいは融合など、様々な現象を考察し、文化の受容と変容について研究を行います。比較研究や関係研究の視点を確保しながら、日本文化や外国文化あるいは文化間関係などについて、幅広い視野からテーマを設定し、文化間の違いについて、単に平行比較をするのではなく、文化交渉の現場で起きた様々な事象を通時的あるいは共時的な観点からも広く考察します。



文明の交差点ウズベキスタン(イメージ図)、19世紀イギリスの漫画雑誌『パンチ』掲載の日本人像、インド生まれ中国・日本育ちのお地蔵さん。文化は地域を超えて接触し、さまざまな関係を結びながら時の流れのなかで変容し、新たな文化を生み出していきます。

09 日本思想研究

世界の思想伝統からみた
日本思想の独自性

この領域では、日本思想の独自性の究明を目指します。日本思想は、世界のさまざまな思想伝統・思想潮流の影響を受けて展開してきました。とりわけ明治以降の日本の哲学にはヨーロッパの思想が大きな影響を与えていますので、それを正確に理解することを、この領域では一つの大きな目標とします。日本の宗教思想、芸道論、また約700年近く続いた武家政権を中心に育まれた武士道思想を含む武道思想も、研究の対象とします。

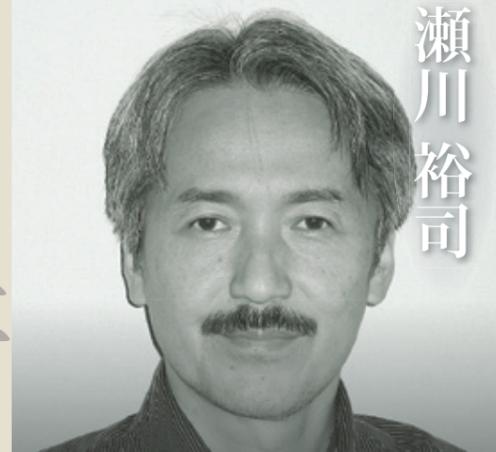


「哲学の道」
写真は京都市左京区にある「哲学の道」です。哲学者・西田幾多郎がここを散策しながら思索にふけたことから、「思索の小径」と呼ばれるようになり、その後「哲学の道」と呼ばれるようになりました。

研究指導教員紹介

研究指導教員紹介

瀬川裕司



SEGAWA YUJI

職 格：教授 博士(文学)
最終学歴：東京大学大学院
主要担当科目：視覚文化演習II
研究テーマ：娯楽映画のメカニズム研究、映画作家論、ドイツ映画・文学研究
キーワード：映画文化、娯楽文化、ドイツ文化

高山宏



TAKAYAMA HIROSHI

職 格：教授
最終学歴：東京大学大学院
主要担当科目：視覚文化演習I
研究テーマ：西欧視覚文化研究の成果による近代日本文化史の書き換え
キーワード：表象、マニエリスム、ピクチャレスク

藤本由香里



FUJIMOTO YUKARI

職 格：准教授
最終学歴：東京大学
主要担当科目：ポップカルチャー演習I
研究テーマ：少女マンガに見る女性の意識の時代的変化、表現技法の発展史、マンガにおける性別越境表現、マンガの国際比較(流通条件や表現規制・著作権問題を含む)
キーワード：少女マンガ、マンガの国際比較、ジェンダーと表象



森川嘉一郎



MORIKAWA KAICHIRO

職 格：准教授
最終学歴：早稲田大学大学院
主要担当科目：ポップカルチャー演習II
研究テーマ：おたく文化史、マンガ・アニメ・ゲームのアーカイブ構築、趣味(taste)と都市空間
キーワード：おたく文化、アーカイブ、趣味(taste)

宮本大人



MIYAMOTO HIROHITO

職 格：准教授
最終学歴：東京大学大学院
主要担当科目：ポップカルチャー演習III
研究テーマ：昭和戦前・戦中期における子供向け物語漫画の表現・出版・流通・受容、およびそれに対する統制
キーワード：子供、戦時統制、物語漫画

蟹瀬 誠一

KANISE Seiichi

職 格: 教授
最終学歴: 上智大学文学部新聞学科
主要担当科目: コンテンツ・メディア演習I
研究テーマ: 情報化社会におけるメディアの役割, 情報操作, 国際政治・経済における報道の役割と影響
キーワード: メディア, 情報操作, メディアリテラー

長谷川 文雄

HASEGAWA Fumio

職 格: 教授 工学博士
最終学歴: 電気通信大学大学院
主要担当科目: コンテンツ・メディア演習II
研究テーマ: コンテンツ・メディア産業の展望, デジタルアーカイブ構築に関する研究
キーワード: コンテンツ産業, メディア産業, デジタルアーカイブ

白戸 伸一

SHIRATO Shinichi

職 格: 教授 博士(工学)
最終学歴: 明治大学大学院
主要担当科目: 日本社会システム演習I
研究テーマ: 産業集積と流通問題, 繊維産業における構造改善事業の史的分析, まちづくり三法と流通問題, 経済団体の国際比較
キーワード: 産業集積, 流通政策, まちづくり三法, 経済団体

尾関 直子

OZEKI Naoko

職 格: 教授 Ph. D
最終学歴: インディアナ・ユニバーシティ・オブ・ベンシルベニア大学院
主要担当科目: 英語教育学演習I
研究テーマ: 学習ストラテジー指導を取り入れた授業, CEFRと学習者の自律, スピーキングモデルの構築
キーワード: 学習ストラテジー, スピーキング, 学習者の自律

呉 在焜

OH JEWHEON

職 格: 准教授 博士(経済学)
最終学歴: 東京大学大学院
主要担当科目: 日本社会システム演習II
研究テーマ: 日本のものづくりシステムの一般化, ものづくり組織能力の国際比較, 自動車産業競争力の国際比較
キーワード: 日本のものづくりシステム, ものづくり組織能力, 製品・工程アーキテクチャ

横田 雅弘

YOKOTA MASAHIRO

職 格: 教授 博士(教育学)
最終学歴: ハーバード大学教育学大学院
主要担当科目: 多文化共生・異文化間教育演習I
研究テーマ: 日本と世界の留学生政策, 異文化間教育とまちづくり, 偏見の低減に関する社会実践活動
キーワード: 留学生政策, 留学生アドバイジング・カウンセリング, まちづくり

ケイト アレン

ALLEN, KATHLEEN O.

職 格: 教授 Ed.D.
最終学歴: コロンビア大学教育学大学院
主要担当科目: 英語教育学演習III
研究テーマ: Discourse of Popular Media, Long-term Foreign Language Learning, Manga Literacy
キーワード: literacy, discourse, media

大須賀 直子

OSUKA Naoko

職 格: 准教授
最終学歴: マンハッタンビル・カレッジ大学院
主要担当科目: 英語教育学演習II
研究テーマ: 日本人学習者の語用論的能力についての研究, 日本人学習者のストラテジー使用の特徴や変化の研究
キーワード: 英語教育, 中間言語語用論, 学習ストラテジー

張 競

CHO Kyo

職 格: 教授 博士(学術)
最終学歴: 東京大学大学院
主要担当科目: 文化関係・文化変容演習I
研究テーマ: 大正文学と中国, 文学の翻訳と受容, 感性や情緒の文化史的研究
キーワード: 文学の受容と変容, 文化の受容と変容, 文化史理論

山口 仲美

YAMAGUCHI NAKAMI

職 格: 教授 文学博士
最終学歴: 東京大学大学院
主要担当科目: 日本語学演習I
研究テーマ: 平安時代の文体研究, 日本語の歴史的研究(特に擬音語・擬態語), 現代語の研究
キーワード: 日本語の歴史, 擬音語・擬態語, 若者言葉

姫野 伴子

HIMENO Tomoko

職 格: 教授
最終学歴: 東京外国語大学大学院
主要担当科目: 日本語教育学演習I
研究テーマ: 異なる言語の母語話者による(事態把握)の違いに関する認知言語学的研究, 現代日本語の統語論的・語用論的研究, 自然な日本語が習得・運用できる教材の開発
キーワード: 事態把握, 自然な日本語, 配慮表現

渡 浩一

WATARI Koichi

職 格: 教授
最終学歴: 東洋大学大学院
主要担当科目: 文化関係・文化変容演習II
研究テーマ: 日本人の信仰と文化, 外国人の見た日本・日本人
キーワード: 地蔵信仰, 地獄絵, 日本文化

美濃 部 仁

MINOBE Hitoshi

職 格: 教授 博士(文学)
最終学歴: 京都大学大学院
主要担当科目: 日本思想演習I
研究テーマ: 西田とドイツ観念論における「絶対的なもの」を、とくに「自我」との関係において研究
キーワード: 自己, 自己否定, 絶対者

明治大学大学院 国際日本学研究所 国際日本学専攻 (2012年4月開設予定)

2011年7月現在設置届出中。名称その他計画に変更が生じる場合があります。

入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)

本研究科の目的は、日本の文化及び社会システムを国際的な視点に立ってよく理解するとともに、異文化や多様な社会システムに対する理解力を持ち、さらに自らの意思を言語によつて的確に表現できる、国際社会で広く活躍する力のある実務者・教育者・研究者等を養成することです。そこで、次のような人材を積極的に受け入れます。

- 国際日本学分野における研究を遂行するのに必要な知識と能力を身に付けることができ、かつそのための努力を惜しまない者。
- 自分自身の問題意識との関係において、従来の学問体系を踏まえて、さらに学際性をもつ研究をおこないたいと考えている者。
- すでに言語教育に携わっている者、また、公的機関、NPO、NGO、民間企業等の各種団体に属する者をはじめとする社会人で、自己の職業上の体験から、問題の本質を見極めたい、あるいは少しでも実際に役立てることのできる問題解決法を探りたいと希望しており、本研究科を修了した後は、その成果を自己の職業に生かすことを考えている者。
- 自国の文化や社会システムと比較しつつ日本の文化や社会システムについて研究することを考えている留学生。

2012年度 入学試験日程 試験場 和泉キャンパス 募集人員 20名 (I期・II期合計)

I期 一般・外国人留学生・社会人

出願期間	2011年 8月22日(月)～8月26日(金)
筆記試験日	2011年 10月7日(金)
面接試験日	2011年 10月8日(土)
合格発表日	2011年 10月12日(水)
試験科目	〈一般・外国人留学生〉 外国語(英・独・仏語より1つ選択)・専門科目(領域別に出題)・面接試験
	〈社会人〉 外国語(英・独・仏語より1つ選択)・小論文(領域別に出題)・面接試験

II期 一般・外国人留学生・社会人

出願期間	〈外国人留学生〉 2011年 12月5日(月)～12月16日(金)
	〈一般・社会人〉 2012年 1月11日(水)～1月17日(火)
筆記試験日	2012年 2月17日(金)
面接試験日	2012年 2月18日(土)
合格発表日	2012年 2月22日(水)
試験科目	〈一般・外国人留学生〉 外国語(英・独・仏語より1つ選択)・専門科目(領域別に出題)・面接試験
	〈社会人〉 外国語(英・独・仏語より1つ選択)・小論文(領域別に出題)・面接試験

※入学試験の詳細は、下記URLよりダウンロードできる募集要項でご確認ください。

【奨学金】

- 〈給費奨学金〉 ○明治大学大学院研究奨励奨学金B(4名):2年間、授業料の半額を給付
○明治大学校友会奨学金(若干名):明治大学校友会からの寄付金による給付奨学金
- 〈貸費奨学金〉 ○日本学生支援機構第一種奨学金(無利子:返還免除制度あり)
○日本学生支援機構第二種奨学金(有利子)
○明治大学大学院貸費奨学金(無利子:返還免除制度なし)

お問い合わせ

明治大学教務事務部 大学院事務室(和泉:国際日本学研究所担当)

電話: 03-5300-1536 メール: ggjs@mics.meiji.ac.jp URL: <http://www.meiji.ac.jp/ggjs/>

キャンパス: 明治大学和泉キャンパス(東京都杉並区永福1-9-1) ※2013年4月から本学の新キャンパス(中野キャンパス)に移転することを計画しています。

アクセス: 京王線、京王井の頭線「明大前駅」下車徒歩5分



PC用ウェブサイトです